

ボリビア共和国サンタクルス州

提携年月日

平成4年（1992年）11月18日

提携の動機及び経過

1989年春頃、県内ボリビア関係者からの姉妹提携申し入れがきっかけである。その後ボリビア県人会がサンタクルス州政府に働きかけ、1989年8月、沖縄県知事が南米を訪問した際に州都から提示された姉妹提携の「意志表明文書」に署名した。

1991年11月にはサンタクルス州知事が姉妹提携を話し合うため来県し、92年度の適当な時期にサンタクルス州で姉妹提携を行うことを確認した。そして1992年11月18日、サンタクルス州庁で姉妹提携調印式を行った。県副知事とサンタクルス州のモスコソ知事が姉妹提携を宣言した。

人的交流として、昭和44年度からこれまでに、ウチナーンチュ子弟等留学生（旧海外移住者子弟留学生）をボリビアから48名受け入れている。また、過去の事業では、移住者子弟農業留学生を昭和60年度から平成19年度までに10名、技術研修員を昭和57年度から平成24年度までに42名受け入れた実績がある。

サンタクルス州の概要

サンタクルス州は日本とほぼ同じ面積で、人口約341万人。ボリビア農業の宝庫といわれ、農牧畜を筆頭に石油・天然ガスを主産業としてボリビア経済への貢献率は第1位。日本政府の経済協力で建設された空港や日本人病院もサンタクルス市にあり、オキナワ移住地は州の農業と経済発展に大きく貢献している。



沖縄県・サンタクルス州姉妹提携宣言

日本国沖縄県とボリビア国サンタクルス州は、この宣言文によって両県州の姉妹関係に合意し、これを確認する。

この提携は、沖縄県民とサンタクルス州民の友好親善を深めるとともに、相互の文化、産業・経済及び技術・学術交流を促進し、もって両県州民の相互理解を深めることを目的とするものである。

我々は、この姉妹関係締結により、双方の経済、社会及び文化の発展に寄与することを確信するものである。

平成4年11月18日

沖縄県知事職務代理者 尚 弘子